

安定した清掃工場の稼働のために

清掃一組の役割と取り組み

東京二十三区清掃一部事務組合（略称：清掃一組）は、ごみの焼却や破碎等の中間処理、及びし尿の処理等を行うために東京23区が共同で設立した特別地方公共団体です。23区から排出される廃棄物を安全かつ確実に処理するために清掃工場での焼却を中心とした廃棄物の処理をおこなっています。



▲ごみクレーンの点検

有効利用」「焼却灰の資源化」等に取り組んでいます。清掃一組は本庁も含め24の施設に職員が1167名（2023年4月現在、管理職含む、現業職は328名、組合員は全体で756名）在籍しています。事務・電気・機械・化学・土木・設備管理・自動車運転等、様々な職種があり、業務も多岐にわたっています。

「効率的で安定した全量処理体制の確保」「最終処分場の延命化」等の施策を掲げ、なかでも「計画的な施設整備の推進」「熱エネルギーの一層の

清掃一組事業計画では「効率的で安定した全量処理体制の確保」「最終処分場の延命化」等の施策を掲げ、なかでも「計画的な施設整備の推進」「熱エネルギーの一層の

稼働のために

な対応をして工場の安定稼働を支えています。

具体的な技術系の職務は、円滑な搬入体制の保持と事故防止対応、各種薬剤の受け払いと漏洩防止、作業にあつた物品・材料の購入や保護具の管理、工場見学者対応等があります。しかし、近年物流業界における2024年問題を前に、薬剤等受け入れ業務に影響が開始されています。従来は薬剤納入時間の指定が可能でありましたが、近年は午前・午後と大まかになり、他の作業に影響が開始されています。さらに、補修作業に使用される作業機器や電子部品の納入に数か月かかることもあり、計画的な補修作業に支障をきたしています。

職員の平均年齢は52・3歳。その内訳は20代・30代（20代は14名）を合わせた41名に対して、50代以上が264名で設備管理職員全体の80%以上を占めており、いびつな年齢構成になっています。清掃工場に配属される設備管理職員が担う職務は、清掃工場の安定稼働のために日常・月例点検を行い、その中で機器の異音・異臭・発熱・振動・電流値等から故障の予兆を察知し、予防保全・事後保全のための補修作業等を行っています。また、設備補修業務に必要な資格を取得して経験を重ね、熟練性を蓄積することにより、故障の未然防止や故障発生時の迅速な対応をして工場の安定稼働を支えています。

灰クレーン作業が業務委託され、弊害が出ています。搬入されたごみや焼却後の灰は、バンカー内の片づけ方、積み方一つで、翌日の搬入搬出に影響が出ます。作業方法は各工場によってそれぞれノウハウがあり、代々受け継がれてきました。また受付・計量業務は、住民との接点の場であり、区収集や持込業者との関係を良好に保つためにも、常に柔軟な対応を求められています。受付と搬入調整、バンカー管理、燃焼管理、焼却計画は密接に関連しており、係をまたいだ意思疎通が欠かせません。業務の一部を委託にすればスムーズな連絡体制は崩され、清掃工場の安定稼働に影響をおよぼすことになりま

す。＊つづく
（清掃一組担当中執 佐藤 建男）

いま No.53

清掃事業は・・・

▶▶▶▶▶ 清掃一組

今回、清掃工場【技術（業務）係・整備係・運転係】に勤務する設備管理職員の主な職務内容と問題点を紹介します。現業職である設備管理

施設管理職員の職務内容と問題点

今回、清掃工場【技術（業務）係・整備係・運転係】に勤務する設備管理職員の主な職務内容と問題点を紹介します。現業職である設備管理



▲手動によるクレーンの操作

多くの清掃工場で搬入受付・計量業務やごみ

多くの清掃工場で搬入受付・計量業務やごみ

職の確立と質の向上を目指して 現評に結集しよう

自治労東京都本部現業評議会第32回定期総会に参加



▲赤池新議長による団結がんばろう

年末に近づいた12月5日（火）、自治労東京都本部現評の定期総会が開催され、東京清掃より3名の役員、14名の代議員が参加しました。

主催者を代表して吉野議長からは、今総会で7年にわたって担ってきた議長の松村中央執行委員長、自治労本部の吉村現業局長から来賓あいさつを受け、3本の議事が満場一致で確認され、総会宣言（案）・総会スローガン（案）の採択、最後に赤池新議長の団結がんばろうで閉会しました。

総会終了後には、この間取り組みなかつた30周年記念交流会が開催され、歴代の役員を担ってきた先輩からあいさつを受けた後、他単組との交流が図られました。（萩原 崇氏）

新役員体制（敬称略）

議長	赤池 渡辺	副議長	智範 善義	局長	範雄 輝宏	事務局長	智範 善義
副議長	渡辺 広	局長	善義 勝宏	事務局長	輝宏 崇	事務局長	善義 崇
事務局長	菅川 萩	事務局長	勝宏 崇	事務局長	崇	事務局長	崇

東京全労協第34回定期大会

東京地域労働運動を進展させ、労働者の生活と権利を勝ち取ろう！

12月2日（土）に新橋交通ビル地下会議室において、東京全労協第34回定期大会が大会代議員70名のうち出席代議員47名、委任状17通で開催されました。

大会は議長団にわが組合の萩原代議員、全統一労組の佐々木代議員を選出し始まりました。主催者を代表して大森議長からは、「反戦・平和を労働組合の一つの柱として闘っている。安心して暮らせる社会を作っていくためにはならない」

続いて争議報告では、JAL争議団・JHU（JAI）



▲東京全労協 大森議長と大会議長団

報告と併せて日東電工株東京本社要請行動の参加要請がありました。

議事は第1号議案から第4号議案まであり、拍手で確認されました。その後、3つの決議、大会宣言、スローガンの採択が確認され、大森議長の団結がんばろうで大会は終了しました。（栗澤 紀和）